

死にかた 生きた 2



僧侶ドクター
友久 久雄

「がんを宣告されて」

前立腺特異抗原

自分ががんになるかもしれないと思ったのは、平成24年（2012年）10月の、職場の健康診断の結果を知った時です。その時PSA（前立腺特異抗原）の値が、基準値（正常値）の4（mg/ml）を越え、4・2となり要精検（精密検査の必要有）と判定されたからです。

PSAというのは、男性の前立腺から分泌

また俗にいうがんの5年生存率は全てのがんのなかで最もよいこと、また、その生存率は全てのがんにおいて年々向上していることがわかりました。

主治医の逡巡

これらのことより、主治医もその時は様子を見ることに同意してくれました。しかし私のPSAの数値は年々少しずつ高値となり、ついに平成28年には10という大台にのりました。

この時主治医は、一度がんの検査を含め精密検査をしようと言ってくれました。しかし私は、もう少し待ちたいと主張しました。主治医は、私が一応医者（精神科）なので、尿失禁や頻尿などの排尿障害のないことを確認した後に「そうですか」と応じてくれました。しかし、しばらく考えた後「ではこうしま

されるたんぱく分解酵素のことで、それが高くなるということは、前立腺にがんか肥大あるいは炎症があるということを示唆しています。そこですぐに本を調べたり、友人の医者に尋ねてみましたが、それぞれ意見が異なり、この時はしばらく経過をみるのがよいという結論に達しました。

同時に前立腺がんのことを調べると、がんになる確率は他の臓器にくらべて低いこと、

しょう。PSAが20を越えたらがんの可能性が高くなります」「それ故、その時は必ず検査を受けてください。それまでは待ちましょう」と言いました。ところが、それから4年後の令和2年4月にはPSAが20を越えました。その数字をみると主治医は、いやとは言わせないという雰囲気です。「精密検査をしましょう」と切り出しました。そして、その後の検査を一週間に一度ずつ予定していきました。

前立腺がん

まず最初の検査は、バイオプシー（針生検）といって、がんであるかどうかを確認するための検査です。そのためには、直接前立腺の組織を針で刺し、その細胞を採取することから始まります。そして、その細胞を顕微鏡で調べ、がん細胞があるかどうかを確認します。もしこれでがん細胞が見つければ、がんであ

るといふ確定診断になります。
私の場合その結果、がん細胞がみつきり、同時に前立腺がんという病名がつけられました。

主治医はこの結果をみて、淡々とした口調で、「間違いなくがんですね。がんであれば治療は手術か、放射線か、ホルモン療法ですね」と言いながら、丁寧に治療法を説明してくれました。

噴火念仏

私にはこの時がいつかはくると、内心覚悟はできていました。そのため、自分でも驚くほど主治医の言葉を淡々と聞いていました。というのは、私はずっと以前より自分の死の問題については、自分なりに解決できていると思っていたからです。前号で述べた「死

なぬ命をいただく」という真の意味を体得しているつもりでした。しかし、それには一つだけ不安がありました。それは、まだ現実の問題として、自分の死を経験したり実感したことがなかったからです。

だからいつかくるであろう、自分の死（の宣告）をどこかで心待ちにしていたということかもしれません。そして、それがこの度「がんの宣告」という型でやってきました。

私がこのように感じていたのは、次号で述べるような、自分なりの体験があったからです。すなわち（それは）私の言う「噴火念仏」の体験です。

それと同時にもうひとつ、キューブラー・ロスの著書『死ぬ瞬間、死にゆく人々との対話』に述べられている「死にゆく過程のチャート」が、自分にも当てはまるかどうかという疑問です。
(つづく)

親鸞さまのご一生、そしてその教えをやさしく学ぶ浄土真宗入門書の決定版。時代を超え、世代を超えて人々の心を震わせる親鸞さま。この一冊を読み終えたとき、あなたは人生に新たな意味を見出す。

森田 真円 著

B6判／223頁／880円(税込)



はじめての親鸞さま

5月21日は親鸞さまのお誕生日!

説得力のある画から、親鸞聖人の波乱万丈な人生に加え、聖人のご苦労と偉大さを痛感する。

【作】岡橋 徹栄 【画】広中 建次

A5判／228頁／1,100円(税込)

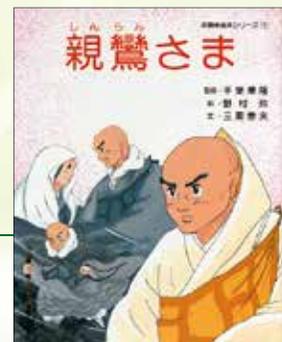


漫画 親鸞さま

子どもたちに、かけがえのないいのちの尊さを、親鸞さまのご生涯から学びとってほしい。アニメ風の親しみやすい絵でつづる。

【文】三栗 章夫 【絵】野村 玲 【監修】千葉 乗隆

B5判／32頁／1,100円(税込)



親鸞さま

